第２学年　国語科　学習指導案

仲間と交流することで考えを広めることはできても，交流によって自分の考えを修正したり深めたりすることができない生徒に，以下の手だてを講じる。

① 生徒に主題は何かを考えさせる際に，「主題は何か」と直接問うことは生徒の思考を促しにくい。そこで「話者は前向きに歩き出したと言えるか言えないか」と問う。二者択一の課題は，生徒をどちらかの立場に立たせることになり，その根拠や理由を主体的に考えることを促す。

② ①の理由を考える際に，詩の表現だけでなく，構成，対比，色など詩を構成する要素の観点を与える。前時では多くの表現に根拠を求めさせ，本時にはそれに新たな観点を加えることで，より多様な読みができる。

③ 互いの考えを十分聞き合った上で，根拠や理由付けを明らかにして自分の考えをもてるようにするために，三角ロジックを用いた交流を組織する。

すると生徒は，文章の構成や展開，表現の仕方を根拠に理由付けし，自分の解釈を仲間と交流することで，考えを修正したり深めたりし，書き手の意図や主題を考えることができるようになる。

＊「三角ロジック」とは，自分の「考え（主張・意見・解釈）」を述べる際に，「根拠」となる叙述とそれをどうとらえたかという「理由付け」を区別して説明する方法である。

１　単元名　　解釈を交流し合い，多様な読みを広げよう
教材「ジーンズ」（三省堂「新しい国語２」平成 22 年度版）

２　単元の目標

○ 自分とは異なる解釈が，どこを根拠にどう理由付けされてつくられたのか理解しようと，仲間の発表を熱心に聞こうとしている。【関心・意欲・態度】

○ 詩の表現や構成要素（構成，対比，色彩）を根拠に，自分の解釈をつくり，仲間と交流することを通して，書き手の意図や主題を考えることができる。【読むこと】

３　単元と指導構想

(1)　単元のとらえについて

生徒は，１年時に「朝のリレー」と「ウソ」を，２年生では，「未知へ」「短歌の世界」「大阿蘇」を詩歌教材として学習している。また，「短歌の世界」の前に「日本語の音節」の取り立て学習を行った。日本語を「音節」の観点から考えることの意義を理解し，「短歌の世界」「大阿蘇」の学習において，音数を意識して音読したり，リズムや言葉の選択のよさを感じたりすることができるようになった。

「ジーンズ」は，音読でリズムやことばの選択のよさを感じることに加え，複数の解釈を交流するというおもしろさを感じさせたい。

「ジーンズ」は，ジーンズを洗って干した話者が，擬人化されたジーンズを通して自己内対話を進めていく構造になっている。「色彩」や「象徴」などの表現から，話者の思い出や心情を読み取ることができる。「ジーンズ」は，生徒にとって身近な題材であり，会話調の文体も親しみ

やすい。しかし，「話者」と「あいつ」の関係の解釈は「友人」「恋人」と分かれるし，「話者」の心情の変化の解釈も「前向きに歩き出したと言える」「言えない」に分かれると考えられる。そこで，叙述に即した多様な読みを交流することで，相手の考えの道筋を理解したり自分の解釈を確かなものにさせたりしたい。

(2) 生徒の実態

二年生で二編の口語自由詩を学習しており，音数を意識して音読したり，リズムや言葉の選択のよさを感じたりすることができている。また，詩歌における特徴的な表現技法やその効果を説明することもほとんどの生徒ができている。

叙述に即して読むことについては，次のような学習を行っている。「小さな手袋」では叙述に即して読み取ったことを絵で表し，叙述と比較したり，仲間の絵と比較したりした。このことにより，国語における「正確に読む」ということを理解した。また「ホタルの里づくり」の段落構成図を説明する際に，「三段落には～と書いてあり，四段落には～と書いてある。両方とも～について書いてあるからまとめた」と説明させた。しかし三角ロジックという手法については，「課題作文の書き方」として取り立て学習をした際に，初めて用いたのみであり，まだ習熟に至ってはいない。

解釈が分かれる発問については，「ホタルの里づくり」の段落構成図や「大阿蘇」を大きく二つに分けるとしたらどこかという学習で行っている。しかし叙述を根拠にした理由があれば考えは違っていてもよいという段階にとどまっており，その後に自分の考えを修正させる学習は経験していない。

他学級で先行実践した第一時の授業では，音読練習の後，一人一人の気付きを交流した。形式や擬人法，ジーンズは「活動的」「話者と共にある」「身近なもの」という形象は読めたが，一方で「あいつとはだれなのか」「何を言いたい詩なのかわからない」という疑問も出され，それに対して「失恋の詩だ。」と答える生徒はいなかった。

(3) 指導の構想

以上のことから次のような手立てを講じる。

① 課題設定の工夫

二者択一の課題を設定することで，生徒をどちらかの立場に立たせ，その根拠や理由を考えることを促す。

第一時では，「季節は夏だ。」と言う生徒に対して「なぜ？」と言う他の生徒のつぶやきがあった。そこで「季節は夏と言えるか，言えないか」を問う。「ジーンズを洗って干した」を根拠に，生地の厚いジーンズを洗って干すのは，乾くだけの天気のよさがあるからだと考えられる。しかし「外に干した」とは書いてないと反論が出る。そこで他の根拠を探させる。「また遊びにつれてってくれるさ（二行省略）　海にだって　大草原にだって」が出る。「海」や「大草原」に行くなら夏が一番合っていると考えるだろう。この段階では，表現を根拠にして理由付けることのイメージをもたせることにとどめ，三角ロジックということばは用いない。

第二時では，「話者とあいつはうまくいっているか」を問う。おそらく最初は，一つの根拠を基にして理由付けて「うまくいっていない」と解釈する生徒が大半を占めるであろう。しかし何となくではなく，自分の考えを相手に理解してもらうためには，根拠と理由付けが必要であること，そのためには三角ロジックを用いることが効果的であることを次のようにして実感させる。自分の解釈を「話者とあいつはうまくいっている（いっていない）。本文に～と書いてある。もし～なら～からだ。」という文型を示して説明させる。さらに三つ以上の根拠を探すように促す。一つの根拠ではっきりしなかった解釈が，複数の根拠を探すことではっきりしてくる。

第三時では，生徒に主題を考えさせるが，「主題は何か」と直接問うのでは生徒の思考を促しにくい。そこで「話者は前向きに歩き出したと言えるか言えないか」と問うことで，主題へとつなげていきたい。

② 詩の構成要素を新たな観点として与える

①の理由を考える際に，詩の表現だけでなく，構成，対比，色など詩を構成する要素の観点を与える。前時では多くの表現に根拠を求めさせ，本時にはそれに新たな観点を加えることで，より多様な読みができるようにする。例えば，詩全体としては一連構成であるものの，現在・過去・未来という三つの時間の流れで構成されている。失恋して落ち込んでいるのであれば，未来で終わっていることはおかしいという解釈が生まれるだろう。さらに理由付けとして自分の経験（実際の体験や伝聞）を語る生徒が出てくることを期待したい。

③ 三角ロジックを用いた交流

互いの考えを十分聞き合った上で，根拠や理由付けを明らかにして自分の考えをもてるようにするために，段階的に三角ロジックを用いた交流を組織する。第二時では，「もし～なら～だからだ」という型に限定して「理由付け」させる。昨年度までの授業では，「自分の考え（意見・解釈）」が，叙述のどこを「根拠」にしており，その根拠をどういう意味だととらえたかという「理由付け」をさせた。しかし生徒にとって，「根拠」は出せても「理由付け」が非常に難しかった。そこで「もし～なら」と限定する。限定することで，生徒は逆の考えに立った場合に表現がどう変わるかを考えることになる。

しかし第三時では表現に加えて新たな観点を加えるため，一つの文型だけでは説明しにくい場合も起こるだろう。そこで，「本文に～と書いてある。それは～ということを表しているからだ。」と自分がとらえた根拠の意味を書くもう一つの型も付け加える。いずれにせよ，「考え」と「根拠」「理由付け」を明確にして互いの考えを聞き合えるため，それぞれの考えの道筋を明らかにした交流が成立する。例えば，「同じ根拠でもその意味のとらえ方が違っているためだ。それは経験の違いからだと分かり，相手の経験を聞くことで納得した。」というように解釈の幅が広がったり深まったりする。

④ 交流の手順，方法の工夫

自分の意見が正しいかどうかを気にして発言できなかったり，苦手だと感じたりしている生徒が半数近くいる。そこで，自分の意見を書いた後に同じ解釈の仲間と交流し，その後全体で交流するという手順で交流活動を行う。

また，できるだけ前の人の考えにつながるように意見を出させることで，自分と仲間の意見を比較したり関連付けたりして考えるようにさせたい。

４ 指導計画（全３時間　本時　３／３）

第１次　詩の形式・技法や大まかな内容を理解する。　（１時間）

・繰り返し音読し，リズムや表現の工夫を感じる。

形式や技法，大まかな内容についてノートにまとめる。

第２次　多様な視点から作品を考える。　（２時間）

・話者とあいつの関係について考え，複数の表現を根拠に自分の解釈を説明する。

・表現や詩の構成要素（構成，対比，色彩）を根拠に話者の心情の変化について考え，自分のとらえた主題を説明する。

５　本時の指導　（３／３）

(1)　ねらい

・詩の表現や構成要素（構成，対比，色彩）を根拠に，自分の解釈をつくり，仲間と交流することを通して，自分の解釈を修正したり深めたりし，書き手の意図や主題を考えることができる。

(2)　本時の構想

①　課題設定の工夫

生徒に主題は何かを考えさせる際に，「主題は何か」と直接問うことは生徒の思考を促しにくい。そこで「話者は前向きに歩き出したと言えるか言えないか」と問う。二者択一の課題は，生徒をどちらかの立場に立たせることになり，その根拠や理由を考えることを促す。

②　詩の構成要素を新たな観点として与える

①の理由を考える際に，詩の表現だけでなく，構成，対比，色など詩を構成する要素の観点を与える。前時では多くの表現に根拠を求めさせ，本時にはそれに新たな観点を加えることで，より多様な読みができる。例えば，詩全体としては一連構成であるものの，現在・過去・未来という三つの時間の流れで構成されている。失恋して落ち込んでいるのであれば，未来で終わっていることはおかしいという解釈が生まれる。また過去に話者が行った「川のほとり」「石段」と未来に行くだろう「海」「大草原」が対比になっていて，未来の方がより大きくより色彩が鮮明になっている。このような詩の構成要素を考えることで，より多様な読みができるようになり，ひいてはなぜそのようにしたのか作者の意図や主題に迫ることができる。

③　三角ロジックを用いた交流

互いの考えを十分聞き合った上で，根拠や理由付けを明らかにして自分の考えをもてるようにするために，三角ロジックを用いた交流を組織する。前時では，「もし～なら～だからだ」という型に限定して「理由付け」させる。本時では表現に加えて新たな観点を加えるため，一つの文型だけでは説明しにくい場合があるだろう。また「理由付け」として自分の経験を語る場合もあるだろう。そこで，「本文に～と書いてある。それは～ということを表しているからだ。」と自分がとらえた根拠の意味を書くもう一つの型も付け加える。いずれにせよ，「考え」と「根拠」「理由付け」を明確にして互いの考えを聞き合えるため，それぞれの考えの道筋を明らかにした交流が成立する。例えば，「同じ根拠でもその意味のとらえ方が違っているためだ。それは経験の違いからだと分かり，相手の経験を聞くことで納得した。」というように解釈の幅が広がったり深まったりする。

(3)　展開

	生徒の学習活動と教師の働き掛け	留意点と評価
導入 5分	○ 前時までを振り返り，本時の学習への見通しをもつ。 ・第一時から設定した共通課題 　① 「あいつ」とは誰か。 　② この詩の主題は何か。 ・第二時は「二人の関係がうまくいっているのかいないのか」について三角ロジックを用いての交流	・「共通課題①②」を黒板に提示する。

展開① 15分	○　詩の主題について表現を根拠に理由付け，自分の解釈をつくる。 話者は前向きに歩き出したと言えるか言えないか，表現を根拠にして三角ロジックに書いてあなたの考えを説明しなさい。 ＜言える＞ ・「あいつが　じゃなくて　ジーンズがさ」と書いてある。もし前向きに歩き出していないなら，家に引きこもっているはずからだ。あいつがつれてってくれなくてもどこにでもまた行けると話者は未来を見ているからだ。 ・「ジーンズを洗って干した」と書いてある。これは洗ったのはジーンズだけでなく自分の心も洗ったと読める。洗って真っ白になった心なら，前向きになっているはずだからだ。 ＜言えない＞ ・「ジーンズを洗って干した」と書いてある。もし前向きに歩き出したなら，あいつとの思い出のジーンズは捨てると思うからだ。 ・「だから乾いたら」と書いてある。もし前向きに歩き出したなら，「もう乾いたから」となるはずだ。だからまだ前向きに歩き出したとはまだ言えない。 ・自分が気が付かなかった仲間の考えをワークシートに書き加える。	・どちらの考えかネームカードを貼らせ，考えが変わったらいつでも張り替えてよいことを告げる ・三角ロジックで説明するワークシートを配付・掲示する。 ・国語辞書を用意しておき，自由に使ってよいと告げる。 ・自分の経験を交えて理由付けてもよいと告げる。 ・机間支援等で全員が一つ以上書いたことを確認してから発表させる。 ・なるべく根拠が同じ生徒，理由が似ている生徒が続けるよう促す。 ○評価 表現を根拠に，理由付けをして自分の考えを書くことができる。
展開② 20分	○　詩の構成要素（構成，対比，色）を新たな観点に加えて話者の心の変化を考える。 表現だけでなく詩の構成要素（構成，対比，色）を新たな観点に加えて解釈しなさい。 ＜言える＞ ・この詩は現在・過去・未来という流れで構成されている。もし前向きに歩き出していないなら，未来は書かないはずだからだ。 ・過去に話者が行った「川のほとり」「石段」と未来に行くだろう「海」「大草原」が対比になっていて，未来の方がより大きくより色彩が鮮明になっている。もし前向きに歩き出していないなら，このように書かないはずだ。 ＜言えない＞ ・最後が「きっと」となって「絶対」ではない。話者がそうなるといいと願っているだけなので，まだ前向きに歩き出したとは言えない。	・観点を示したワークシートを配付する。 ・個で考えた後でフリータイムを設け，同じ考えの仲間と相談させる。 ・「もし～ならば」以外の型でもよいと告げる。 ・発表者に質問や反論があればさせる。 ◇評価◇ 詩の構成要素（構成，対比，色）を根拠に自分の考えを書くことができる。【読む能力】

まとめ 10分	○　詩の主題について自分の考えをまとめる。 この詩の主題は何だとあなたは考えますか。 ・親しい人との別れはつらく落ち込む。しかしそれでも未来へ向かって人は前向きに歩き出すものだ。 ・人はどんなにつらい時でもジーンズのような行動的・積極的で強い精神・意志をもって生きていくことが大切だ。	◇評価◇ 自分の解釈を修正したり深めたりして，主題を書くことができる。 【読む能力】

6　参考

平成21年度及び平成22年度　新潟市立総合教育センターの講座「読解力向上研修」における上越教育大学 学校教育実践研修センター特任准教授（講座当時）佐藤佐敏氏の「読みに活用される論理的思考力」「思考力が発揮される話合いや討論の授業」の講義・演習・資料を参考にして実践した。

＜参考文献＞佐藤佐敏1996「ジーンズ」
（「新しい時代の国語科教育・人権教育」三省堂　pp. 62-78）

＜教材＞

ジーンズ

高橋順子

1　ジーンズを洗って干した
2　遊びが好きな物っていいな
3　主なんか放っといて歩いていってしまいそう
4　元気をおだしってジーンズのお尻が言ってるよ
5　このジーンズは
6　川のほとりに立っていたこともあるし
7　明けがたの石段に坐っていたこともある
8　瑠璃色が好きなジーンズだ
9　だから乾いたら
10　また遊びにつれてってくれるさ
11　あいつが　じゃなくて
12　ジーンズがさ
13　海にだって　大草原にだって
14　きっと